

# 北条氏の台頭

源頼朝の急死後、有力御家人による主導権争いが起きた。やがて台頭した北条氏は、侍所・政所の長官を兼ねる地位「執権」を確立した。一方、幕府の内紛に乗じて後鳥羽上皇が着々と幕府と対決する準備を整えていた。3代将軍源実朝が暗殺されると、後鳥羽はこれを好機として承久の乱に臨んだ。

## ○北条氏と執権

### ●合議の開始

幕府の初期の体制は、源頼朝の独裁による部分が大きかった。

⇒頼朝の死後、幕府の体制は大きな転換を迎えた。

↓

頼朝の長男<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ が2代将軍に就任した。

→(1)の先走った考えは、御家人から反発を受けた。

⇒(1)の権限は制限され、有力御家人13名の合議で最高政務・裁判がなされた。



図1 源頼朝

### ●執権政治の開始

幕府創設以来の有力御家人が病没し、<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ が勢力を伸ばした。

→1203年、(2)は源頼朝の後見の<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_ を討ち、

次いで頼朝を幽閉した後に暗殺した。

⇒(2)は源頼朝の次男<sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_ を3代将軍に立て、政所別当<sup>まんどころ</sup>に就任した。

◇(2)…伊豆国の在庁官人で、頼朝の妻北条政子の父

◇後見…後ろだてとして指導・監督する人

↓

(2)の子<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_ が政所別当の職を継いだ。

→1213年、<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_

…(5)が<sup>(7)</sup> \_\_\_\_\_ の別当の職にあった<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_ を滅ぼした事件

→(5)は侍所・政所の別当を兼ねる地位<sup>(9)</sup> \_\_\_\_\_ を確立し、

以後その地位を北条氏一族で世襲していった。

⇒ほぼ無力な将軍を立て、北条氏が幕府権力を握る<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_ が始まった。



図2 北条時政

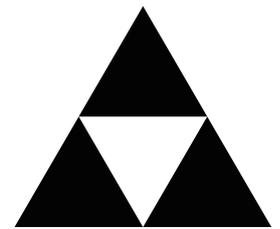


図3 北条氏の家紋(三つ鱗<sup>うろこ</sup>)

## ○承久の乱

### ●勢力挽回の計画

幕府の内紛の一方で、<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_ 上皇は院政をおこないながら、

朝廷を次第に立て直していった。

→(11)上皇は、警護組織である北面の武士に加え、

新たに<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_ を設けて院の軍事力を増強した。

⇒(11)は幕府と対決する態勢・計画を整えていった。

◇(11)…自ら刀剣を作り、菊の紋<sup>きくもん</sup>を彫刻(天皇家の家紋の由来!?)

◇(12)…上皇の住居「院」<sup>さいいん</sup>の西面<sup>さいめん</sup>で勤務した武士

◇宮中で勤務した滝口の武者と、院で勤務した北面の武士・(12)の区別に注意



図4 後鳥羽上皇と菊の御紋

## ●将軍暗殺—親ノカタキハカク討ツゾ

- 1219年、3代将軍<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_ が源頼家の遺児<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_ に暗殺された。  
 →追われた(14)も死に、源頼朝の直系の子孫は断絶してしまった。  
 ⇒幕府は、頼朝の遠縁<sup>とおえん</sup>にあたる幼少<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_ を将軍候補に迎えた。  
 ◇(13)の暗殺後、将軍の仕事は北条政子(別称:尼将軍<sup>あま</sup>)が代行  
 ◇当初、幕府は将軍候補に皇族を望んだが、後鳥羽が拒否  
 ◇1226年、成長して4代将軍に就任した(15)を<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_ と呼称



図5 倒木前の公暁の「隠れ銀杏」

### 多感な将軍—源実朝

幕府が内紛に荒れるなか、源実朝は多感な青年として育ち、京の文化に心の拠り所を求めた。妻に後鳥羽上皇の姻戚にあたる京育ちの女を選び、藤原定家に和歌を習って自ら『金槐和歌集<sup>きんかい</sup>』を編纂するほどであった。  
 山はさけ 海はあせなむ 世なりとも 君にふた心 わがあらめやも  
 上記は後鳥羽に忠誠を誓う実朝の和歌である。朝廷に対して友好的な将軍の姿は、北条氏たち御家人にとって決して好ましいものではなかった。



## ●上皇の挙兵

- 1221年、<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_  
 ...<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_ 上皇が将軍暗殺を好機とし、<sup>(19)</sup> \_\_\_\_\_ 追討の兵を挙げた事件  
 ...挙兵の際に、上皇は北条氏に反発する御家人を誘致したが、  
**北条政子**が御家人に源頼朝の「御恩」を訴え、大多数は北条氏のもとに結集  
 ...<sup>(19)</sup>の子北条泰時と<sup>(19)</sup>の弟北条時房が京に攻め入り、幕府の勝利で決着  
 ⇒後鳥羽上皇(隠岐へ)・土御門上皇・順徳上皇の3人の上皇が流刑に処され、  
 仲恭天皇<sup>ちゆうきやう</sup>が廃された。  
 ◇後鳥羽の挙兵の動きに、撰閥家出身で天台座主<sup>ざす</sup>の<sup>(20)</sup> \_\_\_\_\_ は『愚管抄』で忠告



図7 北条政子

## ●乱後の動向

- 承久の乱で勝利した幕府は、次の2つに取り組んだ。  
 ①朝廷の監視・西国の御家人の統括を担う<sup>(21)</sup> \_\_\_\_\_ を京に設置  
 ②上皇側の所領を没収し、その地の<sup>(22)</sup> \_\_\_\_\_ に御家人を任命  
 ↓  
 任命された(22)は、前にいた荘官や郷司の田地からの取り分を引き継いだ。  
 →取り分が少ない場合や不明な場合には、<sup>(23)</sup> \_\_\_\_\_ を適用して不足分を補った。  
 ⇒(23)の適用で取り分を保障された(22)を、<sup>(24)</sup> \_\_\_\_\_ と呼ぶ。  
 ◇(23) ...11町ごとに1町の免田/免田を除き、段別に5升の**加徴米** /  
 山川からの収益の半分  
 ◇(24)に対して、適用されなかった従来の(22)を<sup>(25)</sup> \_\_\_\_\_ と呼称  
 ◇一国ごとに、田地の面積や荘園領主名・地頭名を記した台帳<sup>(26)</sup> \_\_\_\_\_ を作成  
 ↓

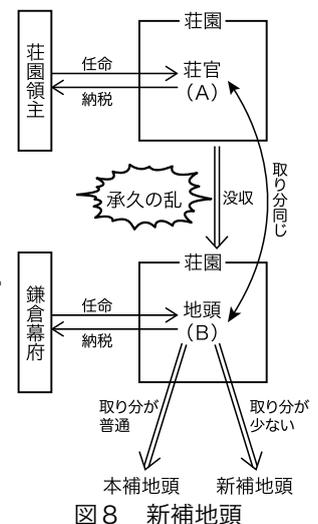


図8 新補地頭

- ①②を通じて幕府の力が西国の荘園・公領にも及び、幕府が朝廷より優位に立った。  
 ⇒朝廷は以後も院政を続けたが、幕府の監視下で政治や皇位の継承に干渉をうけた。